

の強化」(30%)、「流通革命」が進む流通業では「得意分野の絞り込み」(26%)が比較的高い割合を占めるなど業種による特徴が見られる。

「経営上の問題点」については、1位「民間需要の停滞」(49%)、2位「販売先からの値下げ要請」(42%)、3位「人件費の増加」(37%)の順であった。前回調査では第4位となった「大企業の進出による競争の激化」(23%)が今回は14%に低下して第5位となったのに対し、「新規参入者の増加」(15%)が前回の12%から3ポイント増加して第4位を占めた。

自由記入欄には、「価格破壊というデフレ現象が鎮静化に向かわないと、売上・収益とも好転がむずかしい」(製造)、「地場産業の空洞化による設備投資の減少と価格破壊モードへの対応による建設工法の急激な変化」に対応することが急務だ(建設)とする認識など、やはり深刻な価格破壊の現状や空洞化問題に関連した記述が多い。さらに「新聞では大企業が昨年比に利益を出していると言うが、それは下請けを苦しめた結果であり、けっして社会全体の景気がよいのではない」(建設)、「下請法を強化すべき。大企業、親企業の下請いじめは深刻の度を増している」(製造)、「大企業が今まで手を出さなかった我々小企業の分野にまで手を延ばしてきて、この先不安」(流通)、「大企業中心の再編が進み、中小業者の困難増大」(サービス)といった中小企業独自の厳しさを強調するものが増えてきている。

第4号

愛知中小企業家同友会景況調査報告

— 1994年11月 —

「水面下の回復」に足踏み 一部に「デフレ不況」的様相も

【概況】

春以降「水面下の回復」を続けてきた景気動向に足踏みが見られる。前年同月に比して業況が「好転」と回答した企業の割合が前回調査(8月)よりも10ポイント減少して12%となった。「悪化」企業の割合も7ポイント減少したが、「不変」と回答した企業の割合が57%を占めたことに示されるように、順調に改善傾向を示してきた景気が足踏み状態に陥っていることは否定しがたい。また、11月の業況が「悪い」と回答した企業が39%あり、8月(34%)、5月(35%)よりも高い数値となったことも注目しうる。とくに建設業では11月の業況が「悪い」と答えた企業が52%と過半に達した。建設業では、価格が低下したとする企業が72%、売上が減少したとする企業が58%、経常利益が赤字だとする企業が52%、資金繰りが窮屈だとする企業が79%に達している。「デフレ不況」的様相を示しているといえる。

とはいえ、「水面下」(業況が「悪い」とする企業が「良い」とする企業を上回っている)にありながらも製造業ではなお着実に改善傾向が続いているなど、景気動向に基本的なトレンドとしての変化があったとは思われない。また、次期(2月)については「水面」からの浮上が予想されている(全業種)。しかし、いずれにしても回復への足取りは鈍く、大企業の景況感の好転を背景に中小企業向け景気対策に怠りが生じることなどないように注意を払う必要がある。

【調査要項】

- ①調査時 1994年11月25日～12月5日
- ②対象企業 愛知中小企業家同友会、会員企業
- ③調査方法 調査書をFAXで発送、自計記入、FAXで回収
- ④回答企業 696社より、189社の回答をえた(回収率27.2%)
(建設業33社、製造業72社、流通・商業34社、サービス業50社)
- ⑤平均従業員 38.3人

なお、本報告は愛知中小企業家同友会情報センター(委員長、村上瑋樹・村上電気工業(株)社長)が実施した調査結果をもとに、景況分析会議(座長、山口義行立教大学助教授、会議メンバーは報告書末尾に掲載)での検討を経てなされたものである。

愛知中小企業家同友会景況調査報告 No.4

1994年12月30日発行

編集・発行 愛知中小企業家同友会・情報センター
景況調査研究会

(委員長)	村上 瑋樹	村上電気工業(株)
座長	山口 義行	立教大学
	前畑 憲子	岐阜経済大学
	兼岩 靖宗	三貴工業(株)
	鬼頭 秀夫	キトウ工業(株)
	野々山 弘幸	鶴まるぜん
	豊田 弘	知立機工(株)
	木全 哲也	鶴三恵社
	林 永芳	鶴浜木綿
	浅井与四郎	愛知同友会協同組合
	山田 佳倫	愛知中小企業家同友会
	福島 敏司	愛知中小企業家同友会

〒460 名古屋市中区錦三丁目5-18京枝屋ビル4階
電話 052(971)2671(代) ファクシミリ 052(971)5406

〔業況判断〕

足踏みする「水面下の回復」

前年同月に比しての業況判断D I（前年の11月と比べ業況が「好転」したと答えた企業の割合から「悪化」したと答えた企業の割合を引いたもの）は全業種で△19となった。2月△47、5月△23、8月△16と「悪化」超過幅が縮小する「水面下の回復」が続いてきたが、今回調査で再び「悪化」超過幅が拡大する結果となった。ただし、「悪化」と答えた企業の割合は前回調査の37.9%から今回は30.9%に減少しており、D I値が悪化したのは「好転」が減少して（22.0%から12.2%へ）、「不変」が増大した（40.3%から56.3%へ）ことによるものである。その意味では、景況が再び後退したというよりも「回復」傾向が足踏み状態になっていると判断する方が適切であろう。業種別に見ると、建設業（△32→△21）、流通業（△20→△15）では「悪化」超過幅が縮小、製造業（△17→△21）、サービス業（5→△16）では反対に拡大するといったようにかなりのバラつきがみられる。ただし、サービス業を除いて「悪化」と答えた企業の割合は減少してきており、すべての業種で「不変」と答えた企業の割合が増大している。

前々回調査から加わった景況の絶対水準をたずねたD I（「良い」「さほど良くない」「悪い」のうち、「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いたもの）でみると、今回は△22を示した。5月△23、8月△20とわずかながら改善傾向にあった業況判断が上記と同様再び悪化する結果となっている。「良い」と答えた企業が14.1%から16.5%へと増大したが、「悪い」と答えた企業の割合が33.8%から38.8%へと増大したことによる。製造業で「悪い」と答えた企業が35.8%から30.6%へと減少したことを反映してD I値に改善がみられた（△23→△17）以外、他の業種すべてでかなりの悪化がみられ、とくに建設業では「悪い」と答えた企業が51.5%と過半数にいたった。さらに重要なのは、前回調査時点では今回△9（全業種）となることを予想していたことである。予想と実績との間に13ポイントも差ができたのは調査開始以来はじめてである。

前年と比べれば「悪化」しているとはいえないが、8月調査時点で経営者の多くが抱いた「回復」への期待は裏切られ、8月時点よりも業況が「悪い」と感じている企業の割合はむしろふえているというのが現状である。しかし、2月を予想したD I値は6を示し、「回復」への期待はむしろ強まっている。

〔売上高〕〔経常利益〕

売上、経常利益とも「悪化」が減少し、「不変」が増加

売上高D I（前年の11月と比べて、売上げが「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を引いたもの）は前回調査（△4）とほとんど変わらず△3となった。「増加」企業、「悪化」企業ともに割合が減少し、「不変」と答えた企業の割合が増加した。

経常利益D I（「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの）は前回の△14からかなり改善して△5となった。しかし、これも、「好転」企業の割合が増えたことによるのではなく（26.0%→26.5%）、「悪化」企業の割合が減少して（40.4%→31.7%）、「不変」と答えた企業の割合が増加したことによるものである。

また、前回調査では経常利益が「赤字」だと答えた企業の割合が増加し、34.8%に達したが、今回は再び減少して前々回調査と同じ27.0%となった。ただし、建設業で「赤字」企業が51.5%に達し、D I値（「黒字」－「赤字」）も△27となり、全業種の6と大きな違いを示している。

〔在庫〕

過剰感に変化なし

前年同月との対比で増減を問うた在庫D I（「増加」－「減少」）は6となり、前回調査の△7から一転して「増加」超過となった。しかし、在庫過剰感を問うた在庫感D I（「過剰」－「不足」）は前回調査と同様15となり、「過剰」と答えた企業が「不足」と答えた企業を上回る状態に変化はなかった。

〔価格変動〕〔取引条件〕

価格低下圧力が再び拡大

価格低下への圧力が再び強まってきた。価格変動D I（「上昇」－「低下」）は△56となり、前回調査の△53から「低下」超過幅が拡大する結果となった。とくに、建設業のD I値は5月△61、8月△63に続き「低下」超過幅が拡大して△72となった。「低下」と答えた企業は71.9%に達した。前々回の△84から前回△57にまで「低下」超過幅が縮小した流通業でも、今回は△62と再び拡大した。

取引条件に関するD I値（「好転」－「悪化」）も△24となり、前回△22よりも悪化を示す結果となった。やはり値下げ圧力や資金繰りの厳しさを反映してのことであろう。

〔資金繰り〕

引き続き厳しさ増す資金繰り

資金繰りD I（「余裕」－「窮屈」）は△41となり、前回調査の△39に比してさらに厳しさが増したことを示す結果となった。「窮屈」と答えた企業の割合が48.4%に達し、2月調査時点の数値と並んだ。とくに建設業では前回の△47から△76へ大幅に悪化し、「窮屈」と答えた企業の割合が78.8%にまで達した。なお、次期（2月）見通しではさらに厳しさが増すことが予想されている（△46、全業種）

〔施設稼働率〕〔設備過不足〕

再び施設過剰感が若干強まる

2月10、5月7、8月3と徐々に「過剰」超過幅が縮小しつつあった設備過不足D I（「過剰」－「不足」）が今回調査では再び拡大に転じ、5となった。施設稼働率については、D I値（前年同月と比較して、「上昇」－「低下」）が前回調査の6から今回調査では2となり、「上昇」超過幅の縮小を示した。「回復」への動きが足踏み状態にあることを反映した数値となっている。さらに、次期（2月）については施設稼働率D Iが△5と再び「低下」超過に転じると予想されており、注意を要する。

〔雇用〕

再び「過剰」超過へ、とくに流通業で過剰感強まる

前々回の7から△2へ前回「不足」超過に転じた雇用動向D I（「過剰」－「不足」）は今回1となり、わずかながら再び「過剰」超過となった。とくに「過剰」超過幅が拡大する傾向にあった流通業ではD I値が22となり、「過剰」と答えた企業の割合が31.3%に達している。

〔経営上の力点など〕

価格破壊、空洞化、下請中小企業の厳しさなど訴える声

「経営上の力点」に関する調査結果（調査票の諸項目から、上位3つを選択）は、1位「新規受注の確保」（66%）、2位「付加価値の増大」（43%）、3位「社員教育」（34%）の順であった。これら以外では、資金繰りが厳しくなっている建設業では「財務体質

【資料】D I 値 推移 一覧

No. 1

<今月の状況>

経常利益D I 今月の状況

	94年				95年
	2月	5月	8月	11月	2月
「黒字」-「赤字」	2	5	8	11	2
全業種	-9	2	-8	6	7

在庫感D I 今月の状況

	2月	5月	8月	11月	2月
	「過剰」-「不足」	2	5	8	11
全業種	19	25	15	15	8

資金繰りD I 今月の状況

	2月	5月	8月	11月	2月
	「余裕」-「窮屈」	2	5	8	11
全業種	-43	-33	-39	-41	-38

設備過不足D I 今月の状況

	2月	5月	8月	11月	2月
	「過剰」-「不足」	2	5	8	11
全業種	10	7	3	5	-4

雇用動向D I 今月の状況

	2月	5月	8月	11月	2月
	「過剰」-「不足」	2	5	8	11
全業種	11	7	-2	1	-8

業況判断D I 今月の状況

「良い」-「悪い」	今月の状況			
	5月	8月	11月	2月
全業種	-23	-20	-22	-13
建設業	-9	-29	-36	-30
製造業	-33	-23	-17	-8
流通業	-30	-13	-18	-7
サービス業	-11	-12	-24	-17

<前年同月比>

売上高D I 前年同月比

	94年				95年
	2月	5月	8月	11月	2月
「増加」-「減少」	2	5	8	11	2
全業種	-35	-10	-4	-3	11

経常利益D I 前年同月比

	2月	5月	8月	11月	2月
	「好転」-「悪化」	2	5	8	11
全業種	-44	-17	-14	-5	5

在庫感D I 前年同月比

	2月	5月	8月	11月	2月
	「増加」-「減少」	2	5	8	11
全業種	14	-10	-7	6	6

価格変動D I 前年同月比

	2月	5月	8月	11月	2月
	「上昇」-「低下」	2	5	8	11
全業種	-61	-59	-53	-56	-47

取引条件D I 前年同月比

	2月	5月	8月	11月	2月
	「好転」-「悪化」	2	5	8	11
全業種	-26	-21	-22	-24	-29

施設稼働率D I 前年同月比

	2月	5月	8月	11月	2月
	「上昇」-「低下」	2	5	8	11
全業種	-40	-20	6	2	4

<ウラにつづく>

業況判断D I

前年同月比

「好転」-「悪化」	2月	5月	8月	11月	2月
全業種	-47	-23	-16	-19	-11
建設業	-47	-25	-32	-21	-32
製造業	-53	-20	-17	-21	-3
流通業	-44	-26	-20	-15	7
サービス業	-41	-24	5	-16	-29

取引条件D I

次期見通し

「好転」-「悪化」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	-18	-19	-19	-20	-24

資金繰りD I

次期見通し

「余裕」-「窮屈」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	-46	-39	-40	-46	-43

＜次期（3ヶ月先）見通し＞

(表内はその月に対する予測)

売上高D I

次期見通し

「増加」-「減少」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	-7	-2	8	1	8

施設稼働率D I

次期見通し

「上昇」-「低下」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	-14	-10	4	-5	9

経常利益D I

次期見通し

「黒字」-「赤字」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	2	1	9	7	15

設備過不足D I

次期見通し

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	7	7	2	-1	-10

在庫感D I

次期見通し

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	10	15	8	8	10

雇用動向D I

次期見通し

「過剰」-「不足」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	4	6	-4	-18	-4

価格変動D I

次期見通し

「上昇」-「低下」	5月	8月	11月	2月	5月
全業種	-40	-41	-41	-42	-36

業況判断D I

次期見通し

「良い」-「悪い」		8月	11月	2月	5月
全業種		-18	-9	6	-10
建設業		-9	-25	16	-38
製造業		-27	-8	-7	-10
流通業		-21	-4	24	7
サービス業		-11	1	6	0